

あるのに、ほんの所々に面影があるだけで、距離にして1km程の間はまったくの藪こぎである。1時間程こいだ所で送電線の下に出て、ようやく藪こぎから解放される。

【タイム】 遡行開始(8:30)→二俣(9:25)→終了(11:20)→發線(11:35)→送電線下(12:40)

林檎遊記

車ノ沢右俣

1985年9月15日

L

守

送電線の管理のため刈り払いされた所を鳩峰牧場に向けて下降。牧場の途中より沢に入る。下降開始点は、牧場の動物達の為の水呑み場であった。

牧場を左手にみながらどんどん下降する。牧場の端あたりで右俣の本流と合流し、更に下降を続ける。そのうち沢は明るくなり、何の変化もないままに二俣となり、本日の予定の行動を終える。

(記・ハルマ一)

【タイム】 鳩峰牧場・下降開始(13:00)→二俣(14:15)

後沢下流部

1985年7月21日

L

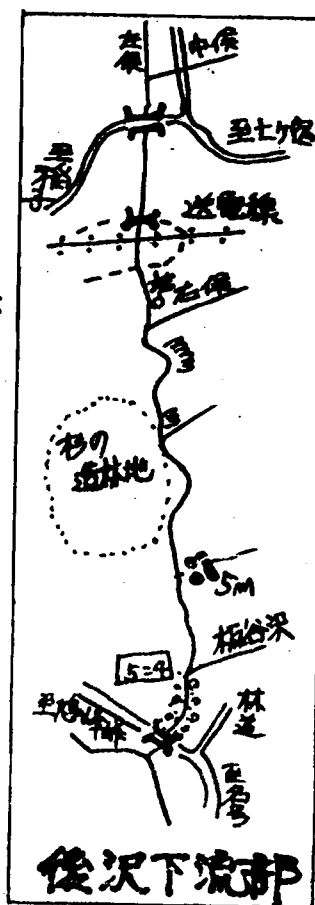
功

落合橋から遡行を開始する。河原を遡んでゆくと、すぐに板谷沢の出合に着く。後沢の方がいくらか水量が多い。このあたりの木々は、いたる所に収獲調査測測の表示がされている。いずれ、伐採される運命にあるようだ。

依然河原歩きが続く。途中、広々とした杉の造林地が現われる。7年生くらいの木がありそうだ。元にもどるにはあと何年かかるのだろうか、気の遠くなる話である。

15:55遡行を開始して1時間10分で七ヶ宿に至る道路に出る。ここで遡行を終了とし、道路を歩いて落合橋にもどる。

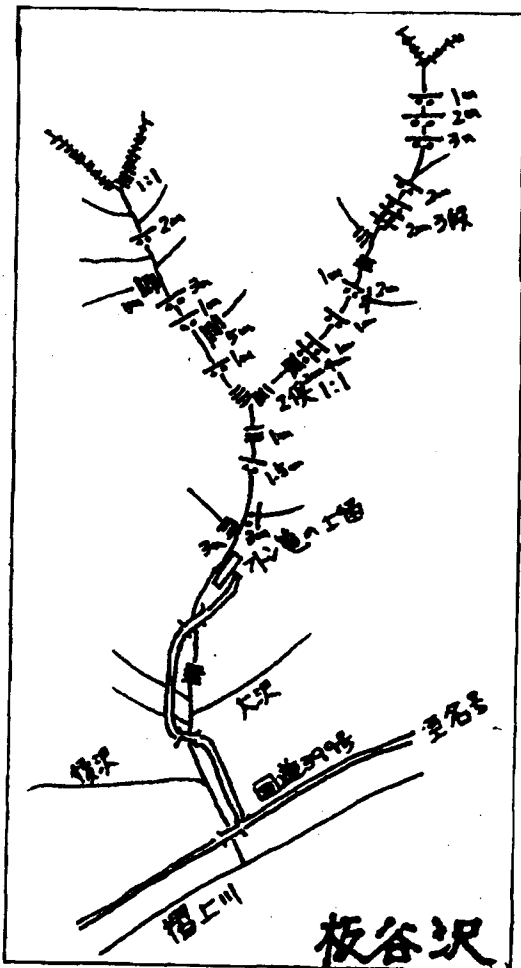
茂庭の沢を歩いて感じるのだが、林野行政は、民間の営利優先の林業では日本の緑を守れないとして、



国が行なってきた事業だと聞いていたが、国有林は至る所伐採され、裸同然にされているように見える。赤字を理由に伐採が急激に進んだり、造林に手を抜くようなことになれば、自然は破壊され、日本の緑は危機に面してしまうのではないだろうか。

(記・.....)

[タイム] 落合橋(14:45)→板谷沢出合(14:55)→橋(15:55)



### 板谷沢左俣

1985年8月31日

㊦

板谷沢林道起点に車をデポし、しばらくは林道を歩いて、大沢出合から遡行を開始する。しばらくは林道との並行で河原歩き。やがて林道も終点となり、フトン籠による土留とコルゲートパイプの排水管がある。この所、右岸、左岸より滝状となって小沢が合流している。

先に進むと二俣となる。水量はほぼ同量。地図に水線の引かれた左俣に入る。適当に小滝が出てきて、変化に富んでくる。

源頭部に来ると、倒木が沢を覆って歩きにくい。倒木の下は花崗岩のナメとなっており、稜線まで一気に突き上げているのを確認して遡行終了とし、戻ることにする。(記・.....)

[タイム] 林道起点(14:00)→大沢出

合→二俣(14:45)→左俣終了(15:10)

### 板谷沢右俣

1985年8月31日

L

板谷沢左俣の遡行を終え、いったん二俣まで戻る。時間を見たらまだ余裕があ